



学校長あいさつ

姫路市医師会看護専門学校の卒業生の皆さん、また、ご家族の皆様いかがお過ごしですか。今年に入ってからインフルエンザの状況は凄まじいものがありますね。皆さん大丈夫でしたか？毎年のように受験シーズンになると流行するインフルエンザ、何とかならないものかとお思いでしょう。インフルエンザに対する日本でのノイラミニダーゼを中心とした治療も世界的にみると少し過剰な気がしますが、今後新薬のエンドヌクレアーゼ阻害薬が出てきても、根本的な対策に結びつかないような気がするの私だけでしょうか。今後はインフルエンザの罹患が重症化や死亡につながる、幼児や高齢者を守る対策がもっと必要な気がします。そして、鼻粘膜や口腔粘膜での抗体産生を行う予防薬の完成を待ちたいものです。

少し話題は変わりますが、最近の播磨地区での今後の医療に影響を及ぼすトピックスは、県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合問題でしょう。着実に準備が進んでいるようで、先日、製鉄記念広畑病院の合併移転後の広畑地区の医療について説明会が開かれました。姫路循環器病センターの350床と製鉄記念広畑病院の392床が合併し、新病院は736床の県内で最大級の病院になりそうです。そこでは新生物、糖尿病、心疾患、脳血管疾患や救急に関連した疾患を重点対象とした高度急性期及び急性期疾患への対応の強化を図るとしています。また、広畑での後医療はツカザキ病院との連携で行い、診療科は7科（総合診療科、消化器内科、循環器内科、神経内科、眼科、人工透析内科、リハビリテーション科）で、救急機能内科の2次輪番に登録の予定とのことです。外科については、総合診療科において簡単な縫合処置などを施し、手術適応の患者については、網干区にある救急機能を拡充したツカザキ病院などへ専門車両で搬送し対応するとのことです。一応、今まで懸案となっていたことがいい方向に進んでいるようで安堵しています。皆様方も今後の就職や転職などいろいろな気もめると思いますが、前向きに進行中です。

姫路市医師会看護専門学校
学校長 清水 一 太

看護師生涯教育研修会及び看護力アップセミナー開催について

姫路市医師会看護専門学校は、今年で開校14年目を迎えます。卒業生915名が地域における保健医療福祉活動に貢献していることを大変嬉しく思います。しかし日々の医療の現場で立ち止まり時に悩むこともあるかと思ひます。

日本が迎えている少子・超高齢・多死社会に対応していくための看護実践応用力は、いくらやる気はあっても、社会の要請に応じていくための力は時として厳しいこともあります。

本校は「一人ではなかなか進展しない」と思われるような看護実践内容を、看護師生涯教育研修会及び看護力アップセミナーを定期的に開催し、看護職の質と量の確保及び向上に努めています。本研修会に参加した皆様から「知識・技術の確認ができ現場での仕事に活かしていこう、というやる気がでた」や「演習体験を通して体で覚え看護師としての自信に繋げることができた」などの感想をいただいています。

第12回看護師生涯教育研修会は、平成30年2月24日(土)14:30～、姫路市医師会館5階大ホールで開催されます。テーマは「在宅療養の未来」です。また29年度の看護力アップセミナーのテーマは「目からウロコ！医療安全、リスクマネジメント」です。Ⅲ期2月の3回の開催も確実な成果を得ているところです。

これからも、姫路市内の医療機関を始めとする看護職関係者の皆様、「主体的に取り組めるような研修・セミナーを企画し看護実践能力向上についての“きっかけ”を提供することによって、参加された一人一人が自己成長を遂げた」と思えるように企画・運営に努めてまいります。

副学校長 白井 澄子

第12回 看護師生涯教育研修会 講演・シンポジウム

～生活習慣病患者の病棟・外来・在宅における継続看護について～

参加費 無料

在宅療養の未来

平成30年2月24日(土) 午後2時30分～午後4時30分 (受付2時～)

会場 姫路市医師会館 5階大ホール
姫路市西今宿三丁目7番21号 電話(079)295-3300

地域包括ケアの推進に向けて、医療依存度の高い状況下にあっても、地域で生活している人が増え、長期間にわたる外来での継続治療など、病院→外来→在宅と医療、看護提供の必要性が高まっています。本研修会を通して、その人らしく円滑に生活が送れるように、その対象者(本人・家族)に応じた「自己管理支援」等について学び、実践にいかして生かしていけることを願います。

◎基調講演 「医師の立場から」地域の人の命と生活を守る
講師 高瀬 義昌氏 (東京都大田区 たかクリニック理事長)

◎シンポジウム 「地域で“生きる”“暮らす”を他職種と支える」
コーディネーター 高瀬 義昌氏

シンポジスト 山中 啓子氏 (姫路聖マリア病院 看護介護統括局長)
～医療・介護の現場からその人の自立支援に向けてのチーム医療について～

シンポジスト 成定 啓子氏 (姫路市医師会 会務事業部副部長)
～地域連携・訪問看護の立場から～

シンポジスト 金居 久美子氏 (NPO法人ひなた 理事長)
～暮らしの中での看取りについて～

看護力アップ セミナー

目からウロコ！ 医療安全、 リスクマネジメント

～患者を守る看護プロフェッショナル～

活劇中の看護士の方のスキルアップ
休憩中の看護士の方の職場復帰
看護学生の国家試験合格を目指すための学外研修



臨 地 実 習

看護は「実践知」とも言われ、机上での知識だけでなく、理論的な知を取り入れ、それが実践を通し内面化され、内面化された知が患者様への働きかけとして返されていく。こうした患者様との相互作用が看護の知の源です。学生は患者様との関わりを通し、たくさんのことを学び、振り返りながら自分自身の看護観を培っていきます。3,000 時間のカリキュラムのうち、約 1/3 にあたる 1,035 時間が充てらる臨地実習は、学生にとっては、実際の現場を初めて目の当たりにし戸惑いながら学んでいく厳しい時間ですが、3年間の学生生活の中で最も成長するかけがえのない時間です。

「私の看護感」 3年 青木智子

心に寄り添うというのは、私の中でできたと思うものではなく、患者様が安心して療養ができ、効果的に治療が行え、持てる力を最大限に生かし、対処行動をとりながら安全に生活ができ、「よかった」と心から思っただけで初めて心に寄り添うことができるのではないかと考えます。また、身体に寄り添うには、知識・技術がなければ状態を理解することも、予測することもできないため、日々勉強をし、知識・技術を身につけ、初めて身体之苦痛に寄り添うことができるのだと考えます。

臨時実習を通し最も心に残っているのは、老年期であり終末期に近い状態の患者様に死と直結する呼吸苦を出現させないようにケアを考え、うまくできなかった時には素直に謝罪し、患者様にアドバイスをしてもらうなど、改善方法を指導者や教員、患者様と共に考え、ケアの質が向上できるように取り組むことで信頼関係を構築することが出来たのではないかと考えます。また、患者様の表情などいつもとの違いを感じ、何が回復を妨げる要因になっているのかを考えることが大切であり、身体だけでなく心の痛みにも気付く感性が大切であると学びました。

実習で指導いただいた素晴らしい看護師は皆、決して今の自分に奢ることなく自分を知らうとし、自分の改善点を模索していました。だからこそ、患者様の心身の痛みに寄り添うことが出来ていたのだと思います。自己理解をすることが患者様を理解するはじまりであり、自己を認めることができはじめて患者様を認めることができるのだと考えます。

患者様との関係性をつくるのは時間の長さではなく、想いや誠実さだと信じています。どのような立場の人でも等しく与えられた命。その命を患者様だけでなく、自分自身も全うできるよう誠実に向き合い、自身の目標とする看護師となるため生涯学習し、命と向き合っていきたいと考えます。

「私たちが考える看護」

1年 井上美柚、塩見萌々香、高橋季紗瑛、本田梨奈、畑中雪未、立道愛李

私たちが考える看護は3つあります。1つ目は患者様の疾患、状態から必要な援助を考え実施することです。学校で学んだことや事前学習をベースに患者様が服用する薬の作用・副作用や症状、患者様の安静度などから、どのような看護が必要なのかを分析、実施、評価を行うことが大切だと考えました。

2つ目は患者様とのコミュニケーションです。バイタルサインなどの値だけで満足するのではなく、患者様とのコミュニケーションをとることからでしか知ることのできない情報があります。例えば患部の痛みの程度や今後の入院生活に対する不安などです。患者様の思いを聞いて問題点を改善し、今後の看護に活かして患者様のニーズを満たし、看護の質を高めるためにもコミュニケーションが大切だと思いました。

3つ目は、一つひとつの行動を疑問に思うことです。ただ、技術を磨くだけでは、看護師になって仕事をしたときに業務になりがちになってしまうと指導者様に助言をいただきました。そうならないように自分の行動の一つひとつ立ち止まって振り返り、根拠を考え疑問に思うことが大切であり、常に深くまで求めることで、より良い看護ができると考えました。

私たちはまだ学生1年目なので、これから先、疑問に思うことに何度も出会うと思います。その経験を今の新鮮で謙虚な気持ちを看護師になってからも忘れることなく、志をもって、患者様にとって良質な看護を提供するために、勉強を頑張りたいと思いました。



第 107 回看護師国家試験に向けて ～ラストスパート～



第107回看護師国家試験が平成30年2月18日(日)に桃山学院大学会場で実施されます。

11月で臨地実習が終了しました。ホッとする間もなく、『さあ。国家試験への追い込み』の時期になりました。4月から定期的に模擬試験を受けて、結果に一喜一憂してきました。平成30年1月9日は最後の模擬試験(7回目)に臨みました。12月からは、実習三昧の日々から国家試験に向けての勉強となり、小テストを受けては振り返りの毎日と外部講師や教員の補講に参加している日々を送っています。分からないことをお互いに教え合う様子や質問してくる内容が知識を統合しないと答えが導きだされないような問題などと国家試験に向けての姿勢や空気感が変わってきています。残り僅かな期間、上手に不安と共存しながらインフルエンザの流行の時期でもあり体調管理を行い、ベストな自分で国家試験に臨むべく頑張っています。

専任教員 小野寺洋子